

小羽山小コミスク通信



令和6年3月26日

食物で地域とつながる

～ 西岐波みかんのお話 ～

3年生は社会科学習の中で「農家の仕事（わたしたちの市でつくられるやさい）」を学習します。今回、その発展的な学習の一環として、近隣地域でみかん農園を経営されている方とJA営農センターの職員の方にご来校いただき、西岐波みかんの栽培などについてお話をさせていただきました。



子どもだけでなく我々も、みかんとは普段から口にする一般的な食物であるにもかかわらず、食料品店等などで購入することがほとんどであり、なかなか自分で栽培するという経験はもちあわせていません。そのような子どもたちにとって、生産者の方から直に語られるみかんの歴史や栽培方法などは、驚きと新しい発見の連続でした。その中でも、生産者の方のみかん栽培に対する思いや喜びを聞くことできたのは、教科書だけでは学ぶことのできない尊い経験になりました。

これまでも、地域学習などで皆様のご協力をいただきながら地域のさまざまな人とのつながりを感じてきましたが、わたしたちの生活に欠かせない食物には自分たちの住む「地域」でつくられているものもあると学んだ子どもたちは地域への愛着を深めることができました。

地域の各世代を結ぶ年中行事

～ どんど焼き ～

今年は晴れやかな青空の下でどんど焼きが行われました。この行事に向けて地区の皆様が昨年末より打ち合わせや準備をされ、今回はぜんざいや豚汁もふるまわれました。小学校からは4名の6年生が年男・年女として大活躍をした他、昨年よりもたくさんのお子どもたちがおいしそうに豚汁をほおばったりビンゴ大会では一喜一憂したりしていました。

祭り火を中心に子どもも大人も皆が笑顔に包まれるこの光景は、おそらく昔も今も変わってはいません。これからも地域の活性化のためにさまざまな世代が知恵を出し合い、協力し合っていきたいものですね。

